

I E A 石油市場レポートの概要（2018年5月16日公表）
（代表部仮訳のため、正確にはIEAのホームページを参照）

1. 2018年の世界の石油需要の増加は、（150万バレル/日の増加から）140万バレル/日の増加にわずかに下方修正された。最近のデータでは2018年第1四半期と第2四半期始めの力強い増加が確認されているが、2018年後半の主に高い油価による減速を見込んでいる。2018年の石油需要は平均で9,920万バレル/日と見込まれる。
2. 4月の世界の石油供給は順調で9,800万バレル/日に近づいた。OPEC非加盟国の堅調な生産がOPEC加盟国の生産減を埋め合わせた。米国がリードするOPEC非加盟国の堅調な生産増加は、世界の石油生産を前年より178万バレル/日押し上げた。OPEC非加盟国の2018年の石油生産は187万バレル/日増加するだろう（先月のレポートよりやや高い数字）。
3. 4月のOPEC加盟国の原油生産は13万バレル/日減少し、3,165万バレル/日となった。これはベネズエラの更なる生産減やアフリカでの生産減によるもの。OPECの減産合意への遵守率は172%に達した。2018年の残りの時期を通じて、OPECの生産への需要は平均で3,225万バレル/日程度となる（4月の生産よりも60万バレル/日多い水準）。
4. 3月のOECD加盟国の民間在庫は、季節的な傾向に反して、2,680万バレル減少し、28.19億バレルに減少した。これは2015年3月以来の低い水準であり、昨年より2.14億バレル少ない。この過程で、過去5カ年間の平均在庫量を100万バレル割り込んだ。
5. ICEのブレントやNYMEXの先物の足下の価格はここ数年で最も高い水準となり、それは年初よりも10ドル/バレル高くなった。堅調な石油需要、OPECの生産減そして地政学的な動きがこの値上がりを下支えしている。
6. 世界の精製量は増加し続けており、7-8月には記録的な8,300万バレル/日に達することが見込まれる。しかしながら、この増加は精製品需要を満たすのには十分ではなく、2018年の第2・第3四半期まで在庫減少が続くだろう。